

## たからものくらべ

スキヤマ

杉山亮 作  
中西恵子 絵  
福音館書店



6さいのとともこと4さいのたかし。たからのはこをもつてきて、くらべっこをしています。ともこのたからものだいごうは、うまれたときのあしがた。でも、たかしのあしがたはありません。(おかあさんがとつくのをわすれちゃったんだって。)ふたりのここからは、うみでひろったがいからやおまもりなど、つぎつぎにたからものができます。あれれ……ふたりは、たからものとりかえっこまではじめましたよ。

## ちいさいモモちゃん

【モモちゃんとかあねちゃんの本 1】

マツタニ

松谷みよ子 著  
講談社

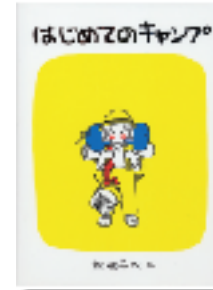


青いそらにお日さまがぴかぴかひかって、あんパンみたいなくもがいっぱいとんでいるなつの日、モモちゃんはうまれました。モモちゃんが1さいになったあるあさ、ママはパンツ5まいとハンカチとタオルとちりがみを、かばんの中におしこみました。そしてモモちゃんは、ママがおしごとをしているあいだ、「あかちゃんのうち」へいくのです。『モモちゃんとかあねちゃんの本』の1きつめです。

## はじめてのキャンプ

ハヤシ

林明子 さく・え  
福音館書店



ちっちゃいなほちゃんは、おおいこたちといっしょにキャンプにでかけることになりました。おもいもつをもちます。ないてはいけません。ごはんをたくために、まきをあつめます。よるはくらいけれど、こわがりません。このやくそくをまもらなければ、つれていってもらえないのです。みんながねてしまったあと、なほちゃんはおしっこがしたくなってしまいました。「おばさん！おしっこ。」でも、だれもおきてはくれません。

## ばん 番ねずみのヤカちゃん

ウイルハ

リチャード・ウィルバー さく  
松岡享子 やく  
大社瑋子 え  
福音館書店



ドドさんのいえには、おかあさんねずみと4ひきの子ねずみたちがいました。おかあさんねずみは、子ねずみたちに「ドドさんたちに見つからないようにしずかにしなさい。」と、ちゅういをしました。もしも見つかると、ドドさんはねずみとりのわなをしかけたり、ねこをかったりするからです。ところが、4ばんめの子ねずみは「やかましやのヤカちゃん」とよばれ、どうしても小さなこえをだすことができなかったのです。

## とうさんおはなしして

ロベル

アーノルド・ローベル 作  
三木卓 訳  
文化出版局



「おはなしがおわったら、すぐおねねするってやくそくするなら、ひとりに1つずつ、せんぶで7つもおはなししてあげよう。」そういって、とうさんねずみはこねずみたちにはなしはじめました。1つめのおはなしは、いどころこえがきこえてくる「ねがいごとのいど」。2つめは、そらのくもがどんどんおおきくなってねこになる「くもことども」。そしてさいごのおはなし『おふる』がおわったころには、ちびねずみたちはぐっすりねむっていました。

## ねずみとおうさま

コロマ

コロマ神父 ぶん  
石井桃子 やく  
土方重巳 え  
岩波書店



むかし、すべいんという国にひとりのおうさまがいました。このおうさまは、子どものためにおもちゃを作る工場をたてたり、ねずみのために「ねこはねずみをとってはいけない」というきそくをきめたりしました。なぜおうさまは、このようなことをなさったのでしょうか。それは、おうさまが子どものころ、あるできごとがあったからです。はじめてはがぬけたおうさまのもとに、ねずみのべれすがあらわれました。

## ふしぎなたいこ

イシイ

石井桃子 ぶん  
清水巖 え  
岩波書店



げんごろうさんは、ふしぎなたいこをもっていました。ひとのはなをたくしたり、ひくくしたりできるたいこです。そのたいこは、みんなにたいへんよろこばれていました。ある日、げんごろうさんは、にんげんのはながどこまでのびるかためしてみたくまりました。ひとをよろこばせるためにしかつかってはいけないたいこののですが、がまんできずに、どんどことんどこ……このほかに、2つのおはなしがおさめられています。

